

## 神奈川県におけるナガバノイタチシダの分布について

田中一雄

Kazuo Tanaka :

Notes on Distribution of *Driopteris Sparsa* (Filicales: Dryopteridaceae)  
in Kanagawa Prefecture

### はじめに

ナガバノイタチシダ *Driopteris sparsa* (図1)は、オシダ科オシダ属の最下羽片の下側第一小羽片が伸びる特徴を持つイタチシダの仲間である。主に暖地の陰湿な林内の地上や岩側に生育し、太平洋岸では千葉県以西に、日本海側では福井県以南に分布する。従来その分布の中心は静岡県より南の太平洋沿岸部であり、特に九州では普通種になる(図2)。1997年8月現在の北限産地は表1に示したように、福井県金津町の北緯36° 13' 付近である(倉田ほか, 1997)。

これまで神奈川県内のナガバノイタチシダに関する記録や報告は極めて少なかったが、近年になって急にその生育地の発見が多くなっている。そこで、神奈川県における発見史と、生育条件及び近県との生育状況の比較等を調査した上で、近年になって発見が多くなった原因と、分布の変遷に関する考察を行ってみた。



図1 ナガバノイタチシダ

### 神奈川県における発見の歴史

従来、神奈川県内におけるナガバノイタチシダの分布は極めて珍しく、その報告は少なかった。「神奈川県植物誌1988」以前の記録は、逗子市神武寺域内(根本, 1954)と二子山(大谷, 1957)及び山北町世附の丹沢産の報告(林ほか, 1961)以外は知られていなかった。

奥山(1948), 増島・石渡(1950)及び根本(1954)にある神武寺産については、倉田(1953)や大谷(1957)により、標本が保存されていないことから疑問視されている。また林ほか(1961)による山北町世附の丹沢の記録についても、大谷(1968)は標本の無いことから疑問を投げかけた。

結局、明確なナガバノイタチシダの県内における第1の産地は、1956年大谷 茂氏による逗子市二子山でのもの(大谷, 1957)であり、第2の産地は1972年に岡 武利氏が横浜市金沢区朝比奈のコナラ林斜面で発見した一株(私信)である。その後しばらく記録は途絶えて1981年に同じく岡 武利氏が、藤沢市片瀬山北麓のスギ林で4株発見した(私信)。筆者は1981年に大磯町のスギ林で1株、次いで1982年にも小田原市水之尾のスギ林内の谷間で20株ほどの群生地を発見し、その後の箱根外輪山のシダ植物相を調査する中で、表2に示したように、次々と新産地が発見できた。この地域では100株を超える群落が1箇所、50株を超える群生地が2箇所、その他20~30株の小群生や、1~3株の個体群などが次々に発見され、箱根外輪山東麓ではさほど珍しいシダではないことが判明してきた。

県内の他の地域でも発見され始め、筆者は1986年に松田町で、1995年に山北町

表1 ナガバノイタチシダの北限から10位までの産地

No.	北限より10位までのナガバノイタチシダの産地	産地の緯度	出典及び標本所有者
北限	福井県金津町畝市野々	N. 36° 13'	倉田・中池, 1997.
2	千葉県印旛郡酒々井町本佐倉	N. 35° 43'	倉俣武男
3	千葉県佐倉市	N. 35° 43'	倉俣武男
4	千葉県山武郡山武町北麻生	N. 35° 39, 2'	谷城勝弘
5	兵庫県出石町	N. 35° 38'	倉田・中池, 1979.
6	岐阜県美濃市	N. 35° 32, 7'	倉田・中池, 1997.
7	千葉県一ノ宮町東浪見	N. 35° 23, 2'	倉俣武男
8	神奈川県松田町湯の沢	N. 35° 22, 9'	田中一雄
9	神奈川県山北町 畑	N. 35° 20, 5'	々
10	横浜市金沢区朝比奈	N. 35° 20, 5'	岡 武利

表2 神奈川県での発見の順序と生育状況

NO.	所在地	発見年月	株数	所在標高	生育方向	生育環境	発見者
1	逗子市二子山	1956.9.	20	100m.	北西面	スギ林	大谷
2	横浜市金沢区朝比奈	1972	1	60m.	北面	コナラ林	岡
3	大磯町虫窪	1981.11	1	70m.	北面	スギ林	田中
4	藤沢市片瀬山	1981.11.	4	40m.	北面	スギ林	岡
5	小田原市水之尾	1982.10.	20	120m.	東面	スギ林	田中
6	松田町湯の沢	1986.6.	1	300m.	北面	スギ林	田中
7	小田原市久野坊所	1991.1.	18<	120m.	北東面	スギ林	田中
8	小田原市久野舟原	1991.11.	100<	220m.	南東面	スギ林	田中
9	南足柄市三竹分沢川	1991.12.	50<	170m.	北面	スギ林	田中
10	南足柄市三竹明星林道	1992.6.	1	280m.	北東面	スギ林	田中
11	小田原市府川久所	1992.6.	25	90m.	北面	スギ林	田中
12	小田原市久野和留沢	1992.8.	1	250m.	北東面	スギ林	田中
13	南足柄市狩野	1992.9.	2	270m.	北東面	スギ林	田中
14	南足柄市大雄町	1992.9.	1	260m.	北面	スギ林	田中
15	南足柄市苧野道頭沢	1993.1.	3	270m.	北面	スギ林	田中
16	南足柄市苧野安沢川	1994.12.	1	260m.	南東面	スギ林	田中
17	南足柄市前田	1995.1.	50<	250m.	北面	スギ林	田中
18	大井町山田	1995.1.	1	220m.	北西面	スギ林	小崎
19	山北町 畑	1995.1.	1	420m.	北西面	スギ林	田中
20	小田原市留場	1996.6.	3	250m.	東面	スギ林	田中
21	小田原市風祭	1996.8.	1	180m.	南東面	スギ林	田中
22	南足柄市塚原矢佐芝	1996.9.	3	400m.	北東面	スギ林	田中
23	南足柄市矢倉沢関場	1996.10.	6	320m.	北西面	スギ林	田中
24	南足柄市苧野柄沢	1996.11.	1	250m.	北東面	スギ林	田中
25	南足柄市狩野	1997.5.	1	180m.	北面	スギ林	田中
26	小田原市石橋	1997.10.	1	210m.	北面	スギ林	田中
27	小田原市根府川	1997.11.	1	370m.	北面	スギ林	田中
28	小田原市早川	1997.12.	1	260m.	北西面	スギ林	田中

峠で各1株ずつ、小崎昭則氏は大井町山田で1株を発見し(私信)、表2の如く次第に神奈川県内の分布が明らかになってきた。

### 近県との比較

本種は福井、岐阜、愛知、静岡、神奈川、千葉の各県より北の県ではまだ発見されていない。神奈川県より東の千葉県での分布は、図3のとおりであるが、産地と量は少なく、1997年8月現在では、安房郡和田町のスギ林で、倉俣武男氏らが発見した(私信)100株を超す群落以外には群生は発見されておらず、他は1~2株ずつが散見される

程度である。

西隣の静岡県での分布は、従来、伊豆半島中部以南と県央以西に多く、北伊豆や駿東にかけては少なかったが(杉本, 1984)、最近になって北伊豆や駿東地区でも細倉哲穂氏の探索により発見された(細倉, 1985ほか)。しかし、それを抜きにしても静岡県の分布の広がり、神奈川県や千葉県より広範囲である。

### 分布北上に関する考察

表2のとおり1991年以降、従来報告のなかった箱根山系で、図4のように近年多くの生育地が見

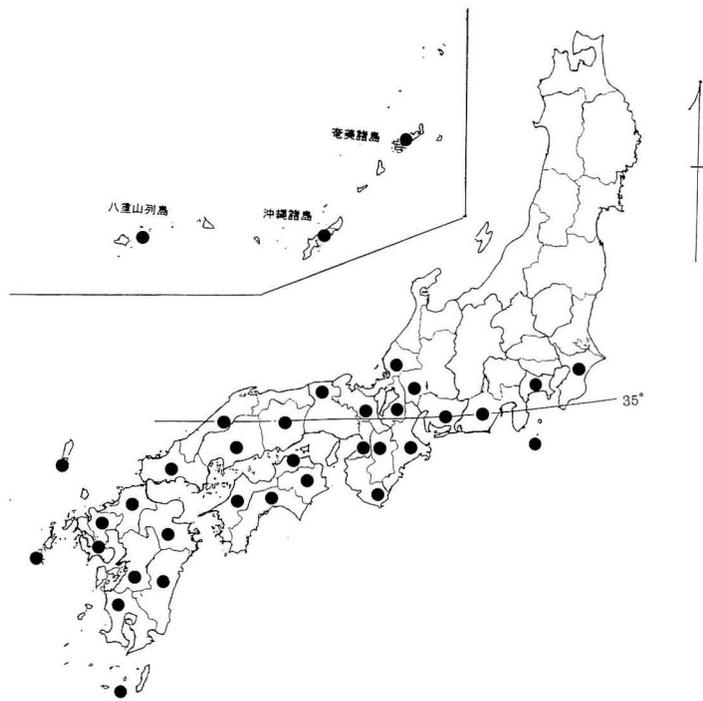


図2 日本のナガバノイタチシダ分布図  
倉田・中池(1997)により作成

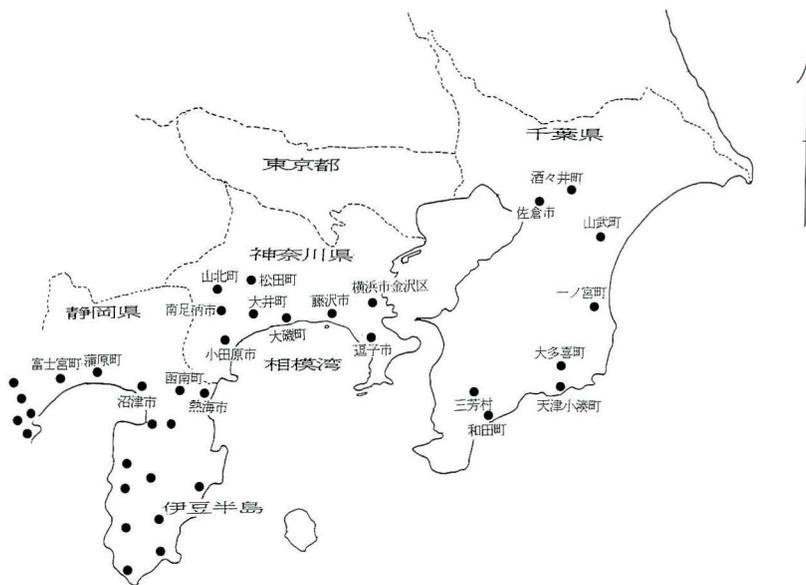


図3 神奈川近県のナガバノイタチシダ分布図

つかっている。このことから、神奈川県  
のナガバノイタチシダは、現在その分布を  
広げている最中で、それは近年になって  
始まったものと考えられる。その理由は、  
過去に多くの研究者が神奈川県全体の植  
物を探索研究してきたのに、ナガバノイ  
タチシダの報告は少なく、さらに箱根山  
系での報告は無かったことによる。また、  
図3に示した千葉県の一ノ宮町、山武町、  
佐倉市、酒々井町等の

千葉県北東部の産地は、いずれもこの数  
年以内に発見されたものである。また、1987  
年に発見された千葉県南部の和田町の  
大きな群落も、その群落全体の葉長が  
小さいことから、充分生長した株からの  
群落拡大ではなく、ごく近年になってか  
らの分布拡大によるものと考えられる。

さらに、もともと広く分布していた静  
岡県においても、前述のとおり富士宮市、  
蒲原町、沼津市、函南町、熱海市等県  
東部の分布は近年になって判明してきた  
もので(細倉, 1985)、神奈川県内の分  
布拡大も、伊豆半島を含む静岡県側か  
らの飛散胞子の増大や適環境の北上等  
に影響されていると考えられる。なお、  
北限産地の福井県金津町での発見も近  
年になってからである。

これまで述べてきたように、従来は伊  
豆半島と静岡市以西にあったナガバノイ  
タチシダの分布最前線は、図4のように  
現在では箱根東麓にまで北上している。  
山北町、松田町、大井町、大磯町、藤  
沢市、逗子市、横浜市金沢区及び図3  
の千葉県の分布の広がりを見ると、箱  
根東麓を基点として、東に向かってほぼ  
放射状に分布が見られる。これは胞子の  
熟する夏季に吹く南西風に乗せて、伊  
豆半島を含む静岡県側から、東方に胞  
子を飛散させているためと考えられる。

本種の生育地は、ほとんどがスギ林  
の林床に限られる。表2に示したように  
神奈川県でのナガバノイタチシダの生  
育環境は、標高50m~400mの間で、  
中心は100m~250mにあり、80%以  
上はスギ植林の林床の斜面から平面に  
移行する辺りで、近くに湧水や流水の  
ある地上に生育している。また生育す  
る林床斜面の方向は北西から北を通り  
南東面までを好み、南~西面は好ま  
ない傾向が見られる。

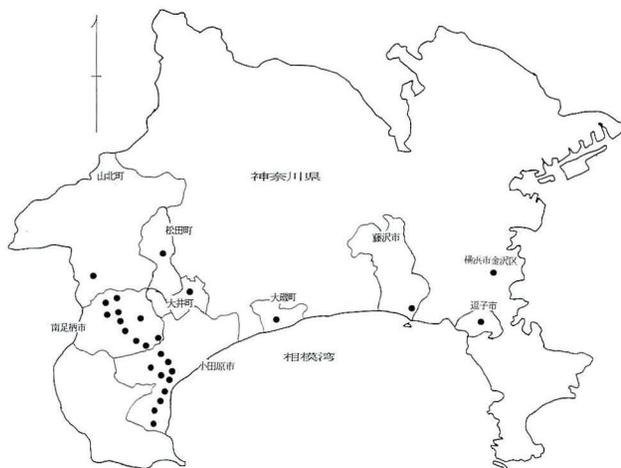


図4 神奈川県内のナガバノイタチシダ分布図

スギ植林地は、戦後の拡大造林により全国的に植林した年代がほぼ同じであり、年月が経過した今、保湿・保温・採光・樹冠が閉ざされて他の植物の侵入が制限される等の条件が、ナガバノイタチシダの好む環境になっている。また、近年の気候の温暖化も分布を北上させている一因と考えられる。

ナガバノイタチシダ以外にも、従来、神奈川県での分布など考えられなかったハチジョウシダ、ニシノコハチジョウシダ、ルリデライヌワラビ、オトコシダ(田中, 1995)、ニセコクモウクジャク(田中, 1997)等の房総半島でもまだ確認されていない暖地性シダ植物が、最近相次いで箱根東麓のスギ林で確認されていることも同様の現象であろう。

今後も温暖化が続けば、神奈川県や福井県以北でも標高100m~250mの暖気が溜りやすい北に開いている陰湿なスギ林床で、ナガバノイタチシダが発見される可能性が高いと考えられる。

#### おわりに

1956年から1997年までの約40年間の、神奈川県におけるナガバノイタチシダの発見の歴史及び、近県との分布の関係を示した。また筆者の1982年から1997年までの16年間にわたるナガバノイタチシダ調査結果として、神奈川県における同種の分布状況を図、表に示した。

本報告が今後、神奈川県周辺における本種の、分布変遷を観察してゆくための基礎資料となれば

幸いである。

#### 謝辞

貴重な情報を提供して戴いた日本シダの会の青木利勝、岡 武利、小崎昭則、倉俣武男、細倉哲穂、谷城勝弘、山本 明の諸氏に深謝する。

#### 参考文献

- 林弥栄・小林義雄・小山芳太郎・大河原利江, 1961. 丹沢山塊植物調査報告書. 林業試験所研究報告, (133): 1-2, pl. 1-16.
- 細倉哲穂, 1988. 静岡県産シダ植物所蔵標本目録. 私家版.
- 神奈川県植物誌調査会編, 1988. 神奈川県植物誌 1988. 1442pp., 32pls. 神奈川県立博物館.
- 倉田 悟, 1953. 野草, **19**(17): 2-4.
- 倉田 悟・中池敏之, 1987. 日本のシダ植物図鑑, 日本のシダ植物図鑑 8. 473pp, 日本シダの会.
- 増島弘行・石渡治一, 1950. 三浦半島植物誌. 横須賀市郷土文化研究室.
- 根本正康, 1954. 神武寺の羊歯類について, 自然科学と博物館, 21: 1-6.
- 大谷 茂, 1957. 三浦半島羊歯植物への寄与(其の一). 横須賀市博物館研究報告, (2): 5-10, pl. 2-4.
- 大谷 茂, 1968. 神奈川県の羊歯植物(3) 横須賀市博物館研究報告, (14): 65-88.
- 奥山春季, 1948. 植物採集覚書(其四). 植物研究雑誌, (22): 30-32.
- 杉本順一, 1984. 静岡県植物誌. 814pp, 第一法規出版.
- 田中一雄, 1988. 大磯町のシダ植物相について. 平塚市博物館研究報告 自然と文化, (11): 29-54.
- 田中一雄, 1992. 小田原市山王川水系におけるシダ植物の分布と生態について. 神奈川自然誌資料, (13): 93-104.
- 田中一雄, 1995. 箱根外輪山産の北限新産地シダ植物について. *FLORA KANAGAWA*, (40): 429-431.
- 田中一雄, 1997. 神奈川県新産と思われるシダその他. *FLORA KANAGAWA*, (42): 455-456.

(神奈川県植物誌調査会)